

小特集 「AIでベンチャー！」

インタビュー3：(株)ホットリンク 代表取締役社長 内山幸樹氏

角 康之
Yasuyuki Sumi

(株)国際電気通信基礎技術研究所メディア情報科学研究所
ATR Media Information Science Research Laboratories.
sumi@atr.co.jp

角 ホットリンクは設立1年半の若い会社ですね。現在は、口コミ情報を利用したWeb検索サービス「ホットリンク」が代表的なプロダクトだと思いますが、まずはこれについて簡単にご説明いただけますか。

内山 ホットリンクは、Web検索の精度を高めるために、利用者コミュニティの中の口コミ情報(人間の知恵)を活用する点が特徴です。利用者一人一人が気に入ったWebページをコメント付きで利用者コミュニティ全体へ推薦できるようになっています。その情報を利用することで、単なるキーワードマッチでは引っかけられないようなページを推薦できたり、検索精度を高めることができるのです。口コミ情報がたまっていくことで、オピニオンリーダーのような人が出てきたりします。

角 我々が普段から何気なく行っている口コミ行為をシステム化したのですか。どうすれば利用できるのですか。

内山 Internet Explorer にツールバーをインストールすることで利用できるようになります。

角 こういうしくみは、Web検索に限らずさまざまなビジネスに展開できそうですね。

内山 少し前までは、ホットリンクのツールバーを特定の情報サイト用に特化してOEM提供したりしていましたが、今はオンライン学習の支援ツールやブロードバンドコンテンツ検索エンジンへの適用なども行っています。

角 たった1年半でそれだけのプロダクトがあるのは、かなり生産スピードが早いように思うのですが。

内山 ホットリンク設立は2000年の6月ですが、それに先駆けて、エージェント研究会という30人くらいの学生有志の集まりがありました。そこには我々のような技術系もいれば、例えばデザインが専門のいわゆる文系の人もいました。職業プログラマーが仕事として開発するよりも、幅広い専門分野をもつ学生プログラマーが集まって趣味として開発するほうが、早く良いものができる、という面も活用しました。

角 「エージェント」という言葉には何か気持ちが込められているのですか。

内山 そのときすでにいくつかのWebシステムを開発した経験があったのですが、ユーザのクリックを待つのではなく、人間のセールスマンのように、言い換えるとエージェントのように、相手の嗜好を推察して情報をプッシュするようなシステムをつくりたい、と考えていたのです。

角 エージェント研究会よりもさらに前に、コンピュータシステム開発のための人材派遣会社を立ち上げていたのですよね。

内山 会社の立上げに参加したのは94年ですが、そのときはまだ大学院に進学したばかりの頃でした。当時、慶應大学の学生が中心になってつくっていた日本語サーチエンジンの開発に参加して、大変おもしろいと思ったのです。そこで、「世界をあっと言わせる」ことを目指して何か一緒にやろう、と大学内でビラを配ったり、メールでそれぞれ口コミの人集めを始めました。そのときに、私が送ったメールが学生の間でどんどん転送されて、慶應大学のメールサーバをパンクさせてしまい、大騒ぎになってしまったこともありました。まあ、そんなこともありながら、学生技術者を企業に派遣するための会社が立ち上がりました。

角 どれくらいの学生が登録されていたのですか。

内山 99年には7,000人くらいになっていました。そのときに、大学には世の中で役立つような技術やそれを実現できる人材がたくさん存在することがよくわかったので、それを世の中のニーズと引き合わせたいと思ったのです。その気持ちは今でも続いていて、今でも大学の研究室や学生と研究会をもちながら、新しい技術の開発を模索しています。

角 ホットリンクという人と人のマッチメイキングシステムを開発した内山さんは、技術と社会のマッチメイキングを以前から実践してきたわけですね。

内山 最近大学でも盛んにTLOと言われていますが、我々の立場は「草の根TLO」とでも言うのでしょうか。

角 今回ホットリンク社のホームページを丁寧に拝見したのですが、最終プロダクトの紹介だけでなく、社員の紹介やプロダクトの開発経緯に関する情報を多く発信していますよね。特に、「HottoLink通信」というシリコンバレーでのシステム開発合宿日記や、ユーザの生の声がホームページで見られるのは大変おもしろかったです。これは、ユーザと密な関係を保ちながらユーザからの生のフィードバックを得ようというねらいがあるのですか。

内山 それもあるのですが、「世界をあっと言わせよう」と呼びかけてつくった会社の歴史を記録として残したい、という気持ちもあるのです。実は「アサヤン」というテレビ番組が好きなんですけど…。

角 なるほど。伝説を記録に残しているわけですね。

それにしても、内山さんがいつも自信满满でやっているわけではなく、いろいろ迷いながら会社を運営しているようすが手にとるようになって、これから起業したいと考えている若い人たちにも参考になるし、何よりも励みになりますよね。そういった人たちに、何かメッセージをいただけますか。

内山 アイディアだけで起業するのではなく、一度エンドユーザに届くところまで実際にものをつくり、そして彼らの喜ぶ顔が見えてから起業すべきだと思います。

角 確かに内山さんの経歴を拝見すると、ホットリンク社設立までにたくさんの実践的な経験を経ていますよね。最後に、AI に対する考えをお聞かせいただけますか。

内山 最初の頃は特に AI とか学会とかは意識していませんでした。ですが、最近をよく AI の論文も読むようになりました。AI には期待しています。そもそも、エージェント研究会を立ち上げた動機は、受け身のシステ

ムでなく自発的なサービスができる賢いシステムをつくることだったわけですから。ただ、技術をそのままの姿で世に出してうまくいくことは少ないように思います。ホットリンク社のロゴ (図参照) に気持ちが込められているのですが、しっかりした技術 (ちょっと固めの文字フォント) を柔らかい表現 (丸い図柄) で包んであげるようなことが重要だと思います。

角 いろいろと機知に富むお話をありがとうございました。

2001年12月28日 受理

プロフィール



内山 幸樹

1971年2月富山県生まれ。1994年3月東京大学工学部船舶海洋工学科卒業。在学中にアメリカズカップ日本代表艇設計チームに所属。1994年4月(株)マジックマウス(現:デジット(株))立上げに参加。検索サッチー開発およびプロデュース (IBM アプティバにバンドル, ローソンにてCD-ROM販売)。学生技術者派遣センター (現:デジット派遣事業部)

立上げ。1997年3月東京大学工学系研究科船舶海洋工学科博士課程中途退学。1997年4月(株)マジックマウス(現:デジット(株))正式入社。1998年5月デジット(株)常務取締役就任。1994~98年各種先端Webシステム企画・開発多数。ショッピングモール企画・開発多数。対話型インテリジェントインタフェースエージェントシステム開発。1999年6月エージェント研究会(現:ホットリンクプロジェクト)立上げ。2000年6月(株)ホットリンク設立, 代表取締役社長に就任。
<http://www.hottolink.co.jp>



図1 (株) ホットリンクのロゴ